

使用済みオムツは 保育所で処分を



備前島久仁子



町長

負担軽減に向けて
検討を始めている



全国的に保育所での処分が進む
使用済みオムツ

質問 保育所の送迎は、持参する荷物が多く、保護者から負担があると聞いている。オムツに名前を書いて持参し、帰りは使用済みオムツまで持ち帰る。衛生的にも良くない。

公立保育園がある全国の約4割に当たる市区町村では、まだオムツの持ち帰りをしている。高崎市では本年6月から保育施設での処分を始め、町内の民間保育園も園で処分している。また、オムツを保管するコンテナ等の予算について、交付金を活用した自治体がある。衛生

面などを考え、町でも早期に検討したらどうか。

答弁 町長 使用済みオムツの持ち帰りについては、保護者と保育士双方の負担軽減に向けて、既に検討を始めているが、オムツの保管場所や保管方法等の課題がある。

質問 保育所の待機児童数及び複数の保育所を利用している世帯、希望した保育所に入所できる割合はどれほどか。

答弁 町長 9月1日現在、待機児童は3名であり、複数の保育所を利用している世帯は10世帯である。また、令和3年9月の申込みにおいて、第3希望までの保育施設に内定した割合は、約84%であった。

質問 公立保育所の副食費や放課後児童クラブ利用料の支払いに、キャッシュレス決済を導入できないか。

答弁 町長 町民の日のお知らせ並びに施設の無料開放等については、広報及びホームページで周知を行っている。今後は、対象施設内にイベントの案内等を掲示するなど、利用者等に対する周知も広く行っていきたい。

答弁 町長 導入コストや新たな収納手数料の増加など、多面的に考えていく必要があるが、早期の導入は考えていないが、今後も検討を継続する。

町民の日の周知と無料開放のPRを積極的に

質問 毎年8月1日は、町民の日と制定されているがなじみが薄い。今年には記念イベントとして、社会体育館のトレーニングルームやB&G海洋センターの無料開放等を行ったが、町外利用者の促進も兼ね、無料開放について積極的にPRすべきではないか。

答弁 町長 町民の日のお知らせ並びに施設の無料開放等については、広報及びホームページで周知を行っている。今後は、対象施設内にイベントの案内等を掲示するなど、利用者等に対する周知も広く行っていきたい。

防災計画・水防計画 の見直しは

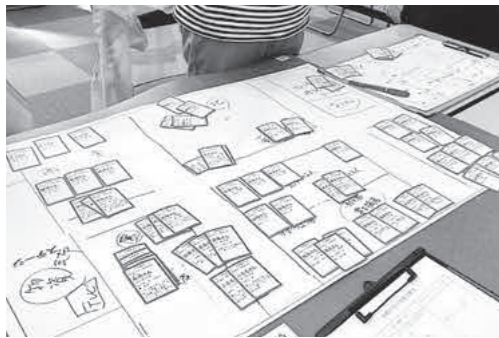


小林一幸



町長

早期に見直したいと
考えている



災害を想定したHUG訓練
(避難所運営ゲーム)

質問 地域防災計画及び水防計画の見直しは行っているのか。

答弁 町長 現時点では行っていないが、早期に見直したいと考えている。

質問 昨年の民生文教常任委員会において、「来年には見直す」とのことだったが、今回は「早期に見直す」と変わってしまった。なぜか。

答弁 町長 環境安全課長 国や県の防災計画が変更になり、防災・減災に対する国の考え方も日々変化している。また、

避難に対する考え方も変わってきている。これらの変更点を取り入れながら、計画を作成しなければならぬが、町だけで計画をつくることは難しい。コンサルタント等も入れ、早期に何とかしたいと考えている。

質問 避難所の開設及び運営は、役場職員が行うのか。

答弁 町長 環境安全課長 会場設営や受付などについては、まずは役場職員で行う。

玉村町の職員定数について

質問 職員定数条例について、今後のことも含め、定数を増やすなど改正を考えているのか。

答弁 町長 職員の定年引上げに伴い、若手・中堅職員の昇進機会の確保や新規採用職員の確保等、組織全体としての活力を維持することから必要に応じて対応していきたい。

新たな感染予防対策及び今後の町の取組は

質問 今までは違った新型コロナウイルス感染予防対策及び取組を行っているのか。

答弁 町長 取り立てて新たな取組は行っていないが、外出が増える夏の時期に合わせた感染防止対策や注意喚起を行うなど、状況に合わせた対応を実施している。

質問 感染者数が増えている中で、対策・対応は。

答弁 健康福祉課長 ホームページやメルタなどで、新型コロナウイルスに関する情報発信をしているが、周知が思うように進んでいないのが現状である。情報提供方法について、課内で改めて考えていきたい。

質問 9月に期限切れとなるワクチンの数は。

答弁 健康福祉課長 現状では、9月11日に76本のモデルナワクチンが廃棄となる。